

ひまわり



令和4年11月21日(月)

マイファザー雨宮（あめみや）



インドシナ半島（東南アジア）南部にカンボジア王国があります。今が旬のかぼちゃは、カンボジアに由来します。室町時代、かぼちゃはポルトガル人によってカンボジアから日本に伝えられました。

当時カンボジア産のウリの意味で「かぼちゃ瓜」と呼ばれ、後に「かぼちゃ」となりました。

カンボジアでは1970年から1991年まで内戦が続きました。日本とカンボジアの交流は、内戦後から始まります。1991年、日本は国連平和維持活動（PKO＝Peace Keeping Operation）で、自衛隊員1200人をカンボジアに派遣し、道路や橋などの整備を行いました。また1994年には、内戦で大きなダメージを受けたアンコール・ワット（世界遺産）の修復のため、遺跡救済チームを現地に派遣しています。このような日本の支援は、カンボジアの人たちの対日感情を良くしていきます。

それをさらに良好にする出来事がありました。カンボジアの内戦では、多くの地雷がいたるところに埋められていました。地雷は、上からの圧力で爆発します。内戦が終わったあとも、地下に埋められた地雷を踏んでしまった市民が、手足を吹き飛ばされたり、命を落とす事故が後を絶ちませんでした。地雷原では小さな子どもが犠牲になることも多く、この悪魔の兵器を除去することは大きな課題でした。

1994年、カンボジアを訪れた株式会社日建（山梨県）^{につけん}の雨宮社長は、内戦中に埋められた地雷が、この国の発展を妨げていることを知ります。そこに課題意識を持った雨宮社長は、パワーショベル型の地雷除去機を作り、2000年にカンボジアに届けたのです。この機械により、地雷の除去作業は、手作業に比べ約20～100倍ものスピードでできるようになりました。そして、多くの地雷が除去され、たくさんの人の命が救われました。

この功績により、雨宮社長はカンボジア人から「マイファザー」と呼ばれ、「英雄」として感謝されています。このことが、カンボジア人の親日感情をさらに高めたのでした。誰かのために役立つ人になりたいですね。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

